

卒業論文講評

小関 隆志

キム インゴル「外国人留学生の就職活動の現状」

キムさんは、外国人留学生が日本企業に就職する際に生じる、留学生と企業とのギャップに注目しました。留学生は語学の点に加えて文化・価値観や、就職慣行の理解に関して、日本人学生に比べてハンディを負っています。そのため、両者の橋渡しをして、留学生が円滑に就職し活躍できるための環境づくりが必要とされています。

キムさんは当初、留学生と、留学生を採用する日本企業を対象にして、アンケート調査やインタビューを通じて、双方の意見を聞き取りました。一つのテーマについて、双方の当事者からバランスよく意見を聞きとることは社会調査として不可欠の視点であり、優れた発想だと思います。また、自身のもつ留学生間ネットワークをフル活用して、様々な大学に通う留学生の仲間から多くの意見を集めたことも、余人には真似しがたい個性が光っています。

さらに良かったのは、双方への意見の聞き取りで終わらず、その先の課題に進んだことです。留学生と日本企業とのギャップに気づいたキムさんは、そのギャップを埋めて双方の橋渡しをする解決策を探りました。それが留学生への就職支援サービス事業でした。キムさんはこの就職支援サービス企業の事例を見出し、このサービスを利用した留学生にインタビューをしています。こうした就職支援サービスの例はまだごくわずかということですが、問題解決の糸口を示していることが、この論文の優れている点だと考えられます。